



アメリカから牧師として来日し、近江八幡で木工家具職人として活躍しているスコット・マーレーさん。木の個性を生かした家具づくりに取り組みながら、NGO活動にも積極的に参加。これからも、ゆっくりと人生を楽しみたいと語る。

アメリカ生まれの在日「世界人」

来日のきっかけは。

高校生のときからアジアとか仏教に興味があったんです。神学校を卒業後、日系の先生の紹介で交換留学生として京都の聖マリア教会に来て、10か月ほど過ごしました。そこで妻と知り合い、一時は妻とともにアメリカに帰国して、5年間ほど暮らしていました。でも、また日本で生活したくなって1992年に再来日したんです。

木工はどこで学ばれたのですか。

僕のおじいさんが趣味で家具づくりをしていたから、たぶん遺伝かな。子どものころからものをつくるのが好きだったんです。秘密基地とかね(笑)。大きくなってからも大工のアルバイトをして、だんだん道具の使い方にも慣れてきたんですね。アメリカで牧師になってからも大工仕事は続けていました。再来日した最初の2年間は、京都で牧師の仕事だけをしていたんですが、すごく退屈で(笑)。1994年に妻の実家がある近江八幡に移り住んで、家具づくりを本格的に始めたんです。

来日してから日本人のイメージは変わりましたか。

以前は「われわれ日本人は」という言葉から、日本人はこういうものだという一つのイメージしかなかったのですが、日本語が話せるようになって個々の日本人とお付き合いすると、それぞれが自分のストーリーをもっている個人だということが分かるようになりました。日本人も外国人もみんな「地球市民」なんですね。僕はアメリカで生まれて日本に住んでいるけど、「日本に住んでいる」という意識はなくて「世界人」だと思っています。世界中の人間に国籍がなくなったら、国同士の問題もなくなると

思うんですけどね。

木の個性を生かした家具づくり

どんな家具づくりを。

アーティスト(芸術家)ではなくクラフトマン(工芸家)として、自分のスタイルをもつことが目標です。「シェーカー・スタイル」と日本人のセンスが好きですね。シェーカー・スタイルとは、18世紀アメリカのキリスト教団から生まれたもので、自然の木本来の個性を生かしたシンプルで機能的な木工品のことです。法隆寺の宮大工・西岡常一氏が書いた『木のいのち木のこころ』という本が好きなんですが、山の北側にあった木は建物でも北側に、南側にあった木は南側に使い、曲がっている木でもどこかに使う場所があると書かれています。それは、人間も同じだということですね。僕も、木の色や節目、シミも残して、木材そのものを生かした感じにつくります。木は切られてからも生きていて、人間と同じく完璧ではありません。だから、木材の形にあわせて家具をデザインするんです。しばらく寝かせておくと、木材にあったイメージがわいてくるんです。楽しいですよ。

ボランティア活動もされているんですね。

世界的な居住問題に奉仕するNGO「ハビタット フォー ヒューマニティー(Habitat for Humanity)」の活動に参加しています。募金やフリーマーケットなどで集められた資金をもとに、住む家がない人たちのために家を建てる活動で、家を得た家族は材料費を返済能力に応じて支払い、また一定時間の労働奉仕をするんです。

僕も今年の9月にモンゴルに行って、ゲルではなく木造の家づくりのお手伝いをしてきました。モンゴルは冬の寒さがとても厳

しいから、家がないと凍死してしまう。これまで貧しい人々のことを頭では理解していたつもりなのですが、実際にモンゴルに行ってみて「違う!」と思いました。「ハビタット」の活動は現地の人のために働くのではなく、自分自身が変わるための体験なのです。

滋賀県人にメッセージを。

いっぱいありますよ(笑)。どの「説教」にしましょう(笑)。滋賀県は、琵琶湖など自然と遊ぶ場所がたくさんありますし、日本の中でも本当に素晴らしく恵まれたところだと思います。その美しい自然をみなさんといっしょに守っていききたいですね。近江八幡にも2年前に「北之庄沢を守る会」ができて本当にうれしかったです。

人生をゆっくり、のんびりと

今後の抱負は。

いままでと同じように自分のペースで自分の好きなことをやります。妻は大学でレクリエーションを教えているのですが、毎日、妻とゆっくり話をしながら付近を30分ぐらい散歩しています。その日の心の準備ができるいい習慣です。妻と僕との共通のメッセージは、人生をゆっくり、のんびりなんです。仕事で忙しくなったら、できるだけペースダウンを心がけるようにしています。明日のことは誰にもわかりません。だから今日という日を、楽しく生きたいというのが2人の思いなんです。日本だと「すみません、お忙しいところ」とか「お忙しいですか」が挨拶になっていて、忙しくないとかサボっているみたいでしょう。欧米だと「楽しんでいますが、エンジョイしていますか」なんですね。妻はきっと有名になるでしょうが、私は大工としてじっくり仕事を続けていきたいですね。

ご自分のイメージどおりの生き方ですね。

そう! すごく悩んですごく時間がかかりましたが、やっと生活が落ち着きました。ようやく自分自身が分かって、ここに根っこが張れましたから、これからはモンゴルなどいろんなところに行けます。来年からは「ハビタット」のプログラムリーダーとして、参加者を募ってモンゴルで家づくりを進めたいと思っています。



プロフィール

1957年12月26日、米国カリフォルニア州生まれ。1980年カリフォルニア州立大学(経営管理)卒業。1986年CDSP神学校(修士課程)卒業。牧師、大工などを経て、1992年牧師として来日。大工、輸入住宅などの仕事にも携わり、1998年家具作家として独立。近江八幡市に家具工房テクトンハウスを開く。

E-mail
scott@hottv.ne.jp

URL
http://www.hottv.ne.jp/tektion/